

## はじめに　　今、何故、健康起因事故か

公益財団法人国際交通安全学会では、毎年、交通に関わる社会的関心事を取り上げ、多様な視点から研究調査を行っております。

本ブックレット「視野障害と交通安全」は、2017年より私たちが展開してきた、公益財団法人国際交通安全学会の研究プロジェクトである「健康起因事故防止のための実証的研究と防止対策の普及啓発に関する研究」の一環として、2020年2月に東京で開催した特別講演会の内容をまとめたものです。特別講演会では、本研究プロジェクトメンバーであり、また日本初の「運転外来」を開設した國松志保先生（西葛西・井上眼科病院）の他、視野研究の第一人者であるDavid Crabb先生（City, University of London）を英国より招聘し、ご講演頂きました。先生方からは、交通事故の原因としての視野障害について、大変わかりやすく、また眼科領域の最先端の知見を交えながらお話しいただきました。そこで、この特別講演会の内容をより多くの方知っていただきたく、本ブックレットを作成いたしました。

緑内障は視野障害の原因として最も多く、日本国内の推計患者数は約460万人といわれ

ていますが、一方で、自覚症状が少なく、進行が進んでいる方でも多くは無自覚、未治療です。緑内障などによる視野障害は、一度進行してしまくと元に戻すことは難しいですが、きちんと検査を受けて、早期発見・早期治療、そして治療を継続することによりその進行を抑えることができます。

本ブックレットがこうした視野障害についての関心を高めるきっかけになると同時に、交通事故を未然に防ぎ、健康で安全な社会を築く一助として貢献できればと心から願っております。

2021年3月

順天堂大学大学院医学研究科公衆衛生学講座

谷川 武



IATSS 会員。神戸大学医学部卒業後、東京大学医学部助手、筑波大学社会医学系助教授、愛媛大学大学院医学系研究科教授を経て、現在、順天堂大学大学院医学研究科教授。専門は公衆衛生学・睡眠予防医学。睡眠呼吸障害と生活習慣病の発症や交通事故発生に関するコホート研究を展開。